



シュンデンタルタイムズ 10

2020

今月の特集

歯科技工士という仕事

歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士から構成される歯科医療従事者は皆さまの「生活の質」向上を目指し、懸命に仕事に励んでおります。

今回は歯科技工士という仕事についてご紹介します。歯科技工士は「さし歯」や「義歯」などの製作を行う繊細な審美感覚が求められる医療技術専門職です。

シュンデンタルクリニックを担当する歯科技工士は、毎朝綿密に打ち合わせをし、患者さまの環境や要望、口の中の状態を十分に検討し、相談の上、新しい歯の製作を行います。場合によっては、歯科医師や歯科衛生士とともに診察室に入り、患者さまの表情、口元の輪郭、新しい歯に対する要望、個性を見立てから、製作に入ることもあります。

一人ひとりの患者さまに合った歯を作るため、よく観察し、どうすればより良い生活を送れるかを常に考えています。



歯科技工士の現在・未来

歯科技工士は患者さまに合った歯を、心を込めて製作したいと日夜努力しています。

当然、本格的に作ろうとすればするほど、高度な技術とそれに見合った時間が必要になります。ところが、現在の国民皆保険制度では、皮肉にもそんな歯科技工士の努力が歯科技工所を赤字経営にしてしまうこともあるのです。

裏面に続く

現在の国民皆保険制度では、一つの歯に対する診療報酬が決まっています。さし歯や義歯の出来や質の良し悪しに関係なく、歯科医院が受け取る診療報酬は同じなのです。

そのため、歯科医院は時間やコストをかけない技工料金の安い歯科技工所へ歯の作製を依頼し、利幅を上げようとする為、技工料金のダンピング※が起これ、歯科技工士が正当な報酬を得られず、廃業や離職といった問題が発生しているのです。

※ダンピング: 不当に安い価格で商品やサービスを提供すること

歯科技工士と当院のチームワーク

あるものをありのままに「保存」しようとする歯科衛生士。

失ってしまったものをありのままに「作り上げる」歯科技工士。

その「コンダクター」をしている歯科医師。

歯科医師から始まるトップダウン構造ではなく、歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士が知識と技術を持ち寄ってスクラムを組み、チームとして徹底した「こだわり」を持って医療提供を行うべきであるとシュンデンタルクリニックは考えます。

だからこそ、シュンデンタルクリニックでは歯科技工士に対する対価や歯科医療における歯科技工士の存在価値をとっても大きく位置づけています。

歯科技工士は、決して欠かすことの出来ない、チームの重要なポジションにいる職種です。

シュンデンタルクリニックは、このチームワークを変えることなく徹底した歯科医療をご提供してまいります。



シュンデンタルクリニック

〒041-0802 北海道函館市石川町 461-38 TEL 0138-47-3737

<http://shundc.jp/>